

令和3年 自己評価・施設関係者評価表

社会福祉法人 松樹会
幼保連携型認定こども園
松浜こども園

1. 本園の教育・保育目標

発達段階を考慮しつつ、一貫した計画をもとに教育・保育を連続的に展開し、卒園までに身につく事を目指します。

思いやりと協調性のある子

- ・相手を尊重し思いやりの心を持つ。
- ・優しい言葉がけや励ますなどして他者をいたわる。
- ・良いこと悪いことに気づき考えて行動する。
- ・礼儀を知る。
- ・友達と思いや考えを共有し、協力しながらやり遂げる。



心もからだも元気な子

- ・身の回りのことを自分でする。
- ・健康な生活リズム、習慣を身につける。
- ・情緒が安定し意欲的に遊ぶ。
- ・体力とバランス感覚を養い、運動能力を向上する。
- ・心のコントロールと我慢ができる。
- ・すべきことを自覚し、創意工夫しながら行動する。(自立心)
- ・諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、さらに挑戦する。

思いやりの心と 未来を生き抜く力を培う

社会に生きる

- ・日本の国柄、伝統的な文化に触れ、我が国や地域社会との繋がりを意識する。
- ・尊敬と感謝の気持ちを持つ。
- ・お手伝いなどをして自分が役に立つことを喜ぶ。
- ・公共の施設や公共の物の正しい使い方を覚え、大切に扱うことを学ぶ。



考える子ども

- ・心を動かす体験を通し、自分なりの感性と想像力で表現する。
- ・言葉を豊富に獲得し、豊かな情操・思考力・表現力を身につける。
- ・他者の意見も参考にしながら判断し、自分の考えをよりよいものにする。
- ・文字をはじめ数量や図形、記号、標識などを理解し生活に役立てる。
- ・自然や物の性質、仕組みなどをよく観察し、好奇心や探究心をもつ。

2. 本年に取り組む重点事項

令和2年2月末より新園舎移転となり、環境の整備と移転に伴う保育教育活動の整備とが課題となった。また、さらなる食の充実を目指し、令和2年6月からサイクル献立を導入したが、なお、子供の食べる意欲の課題が残る。

支援を必要とする園児が増え、園として発達の理解を深める課題ができた。

3. 評価項目の達成及び取り組み内容

評価項目	評価の着眼点	評価	取組状況
保育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建学の精神や教育目標に基づいた運営がなされているか ・ 教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか ・ 年間の指導計画や週案などが適切に作成されているか 	A	<p>入園0歳児から卒園に至るまで一貫した計画を持ち、年間保育指導案から月・週案に連動するよう作成されています。どのクラスの計画・実施状況や反省評価を含めた情報も、どの職員も見ることができ共有されています。</p>
指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定こども園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導が適切に行われているか ・ 環境を通して行う教育が適切に実施されているか ・ 幼児との信頼関係の構築が図られているか ・ 幼児の主体的な活動が尊重されているか ・ 遊びを通した総合的な指導が適切に行われているか ・ 一人一人の発達の特性に応じた指導が適切に行われているか など 	A	<p>教育要領に沿った保育計画を、子供の発達に応じて保育実践しております。そうしたクラス運営も個別配慮の視点を欠くことはできません。養護と教育の両輪が成り立つよう配慮しています。</p> <p>幼児の主体的なあそびの活動については、特に未満児のおもちゃの環境を整備して、より遊びこめるよう見直していきます。</p>
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育の為、研修を実施しているか ・ 特別な支援を必要とする幼児について、個別の指導計画や個別の教育支援計画が適切に作成されているか ・ 特別な支援を必要とする幼児について、家庭及び医療や福祉などの関係機関との連携が適切に図られているか 	A	<p>支援を必要とする子供も多く在籍するようになりました。園として発達支援に強くなる必要を感じ、重点課題とし、毎月専門の研修を積み研鑽しております。</p> <p>専門機関との連携も図り個別のケアをしております。</p>
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法定の学校安全計画や、学校防災計画等は作成、実施されているか ・ 園舎や通園路等の安全点検や教職員・幼児の安全対応能力の向上を図るための取組 	A	<p>当園の園舎の立地から1階・2階ともに地上階という安心材料があり、状況を変えての避難訓練もその都度行っております。</p>

	<p>が定期的に行われているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関、団体との連携を図りつつ、幼児の安全を確保するための具体的な取組が行われているか 		
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の課題をふまえ研修を実施しているか ・保育研究を全教員が行うことや、保育研究を継続的に実施することなどを通じ、指導改善に全園的に取り組んでいるか ・教員の指導の状況を的確に把握するとともに、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか ・管理職が定期的に保育観察を行い、教員に対して適切な指導・助言をしているか 	A	<p>今年も各団体主催の園外研修が中止になる中、園主催の外部講師依頼の研修・職員内研修を重ねました。1～2名参加の研修と違い全員で研修することにより意識を共有することができました。</p>
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・園の様々な情報が、分かりやすく、かつ適切な分量で提供されているか ・幼児等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか ・園便りや掲示板等を用い、教育活動について、園や子育てに関する様々な情報の伝達・公開が適切に行われているか ・ホームページの活用をはじめ、広く地域住民等に園に関する情報を周知し、提供するための取組を行っているか 	A	<p>冊子状の園だよりを毎月発行配布し、保育のねらいと結果や反省評価が見られるよう整理しました。子供の成長が理解できるよう、日々の保育内容が見えるよう工夫しております。HPは外部の方向けに概略を説明しております。</p>
給食	<ul style="list-style-type: none"> ・食事やおやつは、素材から手作りしたものを提供するように努めているか ・子どもが主体的に偏食を直せるよう工夫をしているか ・子どもが落ち着いて食事を楽しめるように、食事をするための雰囲気づくり等に配慮しているか ・子どもの食事の状況を把握するため、調理担当者は食事の様子を見る機会を設けているか ・食事は、季節感のある献立や食材を利用しているか ・発育期にある子どもの食事の重要性と、 	A	<p>さらなる給食の充実をはかり、R2/6よりサイクル献立を取り入れております。課題であった厨房業務の流れも落ち着いてきました。食材の味噌も本年から天然醸造を使い発酵食品による免疫増強・体作りをさらに改善しました。</p> <p>この献立はおやつも含めて手作りで、身体によい和食を4週にわたり繰り返すことにより、子供は食の経験を積み、しだいに偏食を少なくなります。</p> <p>将来にわたる食の基礎を学んでもら</p>

	園で提供する食事への配慮を保護者に伝え ているか ・ 厨房内における日々の業務反省評価をし ているか		うつもりで取り組んでおります。
施 設・ 整備	・ 園庭や園舎、敷地は幼児に適した面積か ・ 安全にかかる配慮は適切か ・ 遊具の種類や設置状況は適切か	A	1・2階とも地上階という特殊な立 地で安全です。面積は法定以上に広 いです。今後必要に応じて教具も増 やしていきます。 園庭遊具のジャンバラミンはダイナミ ックな遊びの担保のため高さのある 遊具ですが、本年衝撃吸収性能のあ る人工芝を整理しました。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>園舎建築から全体的に落ち着いてきており、本年はクラスのお部屋の環境を主に 0・1 歳児のクラスから見直す事にしました。お部屋をおもちゃの収納棚などでエリア分けし、それぞれのエリアに絵本エリア・ままごとエリア・0 歳児エリア等の意味を持たせ、遊びこんでもらう事をねらい保育環境整備をしたものです。</p> <p>一方で、職員の理解研究と課題共有意識においては課題が残り、今後職員間での活発な遊びの提案が出てくることを期待しています。「あそび」の重要さは小学校接続の課題克服の中でも論議され、より自発的なあそびを通した学びが必要と言われており、当園の職員も「あそび」に関する様々な研修機会を設けられればと考えております。</p> <p>子供の自発的な活動の展開は、例えば年長のクラスでは大型絵画制作やグループによるカルタ作り、群読発表の場で子供達からの活発な意見工夫や励ましが見られ、活動にあそびの要素があるため積極的に楽しんでいました。あそびは学びを深くします。</p> <p>難しい課題であった給食のレベルアップとしてのサイクル献立導入は、厨房業務運営の改善をしながらしだいに落ち着いてきました。将来にわたって体を支える食の基礎を培い、美味しい和食中心の給食提供が軌道に乗ってきたと感じます。通常の献立よりも人件費や材料費がかかり国の保育積算以上の出費となりますが、今後も続けていきます。</p> <p>一方で、子供の食欲に課題があり、遊び食べや残食、好き嫌い、食べるのに長時間かかる等の課題が残ります。</p> <p>発達支援を必要とする園児が増え、当園の保育で、どのように接し、どのように伸ばす</p>

	かが大きな課題でした。R2, 5月からABAという応用行動分析学の講師を毎月お呼びし、研修を重ねました。発達の違いや差は一人ひとり当然あるものですが、分析や実践し、連携する中で対応能力が少しずつ上がっているのではないかと感じております。
--	--

「3.4」の評価結果の表示

評価	十分達成されている	A
	達成されている	B
	取り組まれているが、成果が十分でない	C
	取組が不十分である	D

5. 今後取組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
厨房運営	美味しいものを提供する工夫。他園にて実習させて頂く等して、研究する

6. 施設関係者評価委員会の意見

<p>評価①</p> <p>今年度もコロナウィルスの感染拡大の影響で、予定されていた行事がいくつか中止となり園での様子を見る機会が少なかったように感じました。先生方や保護者の方とお話をする機会も少なくコミュニケーションが上手く取ることができなかったように感じました。</p> <p>サイクル給食に関しては、回を重ねて苦手を克服できたものもありましたが、給食のことを考えると泣き出してしまうほど苦手なメニューがあり毎週大変なおもいで食べた時もあったようです。</p> <p>行事は中止になったものが多かったですが、園内での生活は例年のように体育教室や座禅、お茶のお稽古等、家庭ではできない経験をさせて頂けたことに感謝しています。</p> <p>保育士の先生方には、大変お世話になっています。体調のことから普段の出来事まで丁寧に教えてくださり安心しています。自分のクラスではない先生方も子どもの名前を覚えて声をかけてくれるので、子供はもちろん親としても嬉しくありがたいと思います。また給食への取り組み、素材から手作りしたものを温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べることができる。</p> <p>季節感のある献立や食材を利用し、子どもたちは食材に触れる時間があるので良い経験ができていると思います。玄関には、毎日給食のメニューを展示してあるので、お迎えの時間は子どもとコミュニケーションの場になっています。毎日、楽しく登園できる環境づくり気配りありがとうございます。</p> <p>評価②</p> <p>コロナ渦でも難しい環境の中での保育をして頂きましてありがとうございます。各行</p>
--

事が中止になったりする中で、運動会の工夫をしてくださり、無事に開催できよかったです。他の行事も、第一部・第二部に分けたり、また、群読会は撮影をしてくださったりと参加できないところでの工夫も感謝いたします。

子供から聞く話の中で、他のクラスのお友達との交流があることも聞きました。同い年以外のクラスの交流などで、とても良い経験ができています。

給食では、去年に比べ好き嫌いが少なくなったように感じました。子供達も給食を完食した日はニコニコして話してきます。いつも一人一人に目を配り、すぐ対応して下さる先生方に心より感謝いたします。

評価③

・幼児にとって食事は冒険でもあり、給食を残食なく喜んで食べてもらうという事は大人が考える以上に難しい課題です。あきらめずに園の目指すおいしい給食の試みを続けてください。

・どこの園でも抱える発達支援の課題だが、外部講師を招き、保育者全体の能力を高めるという試みは評価できる。今後も個別の発達に応じられるよう研修を維持してもらいたい。

施設関係者：保護者の代表の方 法人監事

7. 令和3年公開保育の取組状況

4月14日 5月19日 6月16日 7月14日 8月3日 9月8日
10月14日 11月10日 12月8日 1月12日 2月9日 3月2日
保育参観を毎月実施。

例年の2・3月は近隣小学校（松浜・濁川・太夫浜）教員より参観頂くが、ウイルス禍の為、本年度、教員対象参観は中止。